

第10回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日時：平成27年5月7日(木) 15時30分～16時45分

場所：軽井沢プリンス ウェスト 1F 白樺

出席者：飯野(理事長)、荒川、伊藤、宇佐美、小川、小林、阪本、鈴木、高瀬、武田、内藤、中川、増田、益田、峯田、守本、山嵜(理事)、氷見、松谷(監事)、市村、田中、早川(顧問)、有本、香山、新鍋、工、深美(幹事)

(50音順, 敬称略)

(1) 飯野ゆき子理事長挨拶

議事録署名人に内藤理事と鈴木理事が指名された。本大会開催にあたって挨拶が述べられた。理事会出席者および会長の宇佐美真一会長への謝意が述べられた。

(2) 宇佐美真一会長挨拶

宇佐美真一第10回会長より、開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

(3) 平成26年度第2回理事会議事録確認について(飯野理事長)

平成26年度第2回理事会が平成26年9月6日に行われ、議事録の確認をするように述べられた。

(4) 平成26年度事業報告について(庶務：守本理事)

[平成26年5月1日-平成27年4月30日]

- 1) 第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成26年6月6日-7日の2日間、浜松市において浜松医科大学耳鼻咽喉科 峯田周幸会長のもとに開催した。
- 2) 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成28年に徳島大学耳鼻咽喉科 武田憲昭会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第35巻3号、および第36巻1号、2号を刊行した。
- 4) 平成26年度第1回理事会および評議会を平成26年6月5日に開催した。第2回理事会を平成26年9月6日に開催した。
- 5) 学会事務局を小宮山印刷工業株式会社内に移転した。
- 6) 本学会の会計に関する諸業務を公認会計士に委託した。
- 7) 小児慢性特定疾患にかかる研究班会議に出席し、気道狭窄医療意見書案の作成に協力した。
- 8) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 9) 小児期外科系関連学会協議会に出席した。ボタン電池誤飲に関する要望書を検討し、学会として賛同した。

10) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの作成に委員として協力した。

11) 学会ホームページの改訂、更新を行った。

12) 会員名簿作成のための調査を行った。

13) 小児耳鼻咽喉科学会 会員数：平成27年4月23日現在

名誉会員 2名

正会員 1162名 (前年度 正会員1098名)

団体会員 8名

購読会員 5名

寄贈会員 4名

1181名

守本理事から小児慢性特定疾患の見直しについて、今年の1月から咽頭狭窄、喉頭狭窄も含まれることになったことが報告された。

(5) 平成26年度決算報告(会計：小林理事)

小林会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。

(6) 会計監査報告(監事：氷見監事)

平成27年5月7日に監査を行い、適正であったことが報告され、決算が承認された。

(7) 平成27年度事業計画(案)(庶務：守本理事)

[平成27年5月1日-平成28年4月30日]

1) 第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成27年5月8日-9日の2日間、信州大学耳鼻咽喉科 宇佐美真一会長のもとに開催する。

2) 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成28年6月30日-7月1日の2日間、徳島大学耳鼻咽喉科 武田憲昭会長のもと開催に向け準備する。会場はホテルクレメント徳島である。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第36巻3号、および第37巻1号、2号を刊行する。

4) 理事会および評議員会を平成27年5月7日に開催する。

5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

6) 学会ホームページの充実をはかる。

7) 小児慢性特定疾患のあり方に関する研究事業に協力する。

8) 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会(四者協)の活動に委員として協力する。

9) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの作成に委員として協力する。

10) 会員名簿作成のための調査を継続する。

(8) 平成27年度予算(案)(会計：小林理事)
平成27年度予算案について報告があった。事務局費、J-stageオンライン投稿審査システム応募、公認会計士に関する諸費用が昨年度に比べ増えていることが説明され、以上承認された。

(9) 学会事務所移転に関する会則改定について（会則：内藤理事）
本学会が小宮山印刷工業株式会社に学会の事務業務を委任することに関して平成26年10月21日に契約がかわされた。事務局移転にともない会則の一部改定が必要であることが説明され、承認された。

10) J-STAGEオンライン投稿審査システム応募について（委員長：鈴木理事）
オンライン投稿査読システムの導入を検討し、学会ホームページ担当の益田理事と協議した結果、「J-STAGEオンライン投稿審査システム」を利用するのが安定性、経済性から好ましく、学会負担金として年45,000円（税別）が必要である説明され応募することが承認された。

11) 総会の助成金増額について（会計：小林理事）
平成27年度の予算（案）を踏まえて、現時点での助成金増額を見送り、引き続き検討することとなった。

12) 評議員の辞退および推薦について（庶務：守本理事）
鈴木賢二先生が評議員を辞退されたこと、新任評議員として山下裕司先生（山口大学耳鼻咽喉科）、成相昭吉先生（横浜南共済病院小児科）、任智美先生（兵庫医科大学耳鼻咽喉科）、田中学先生（埼玉県立小児医療センター保健発達部）、小島博己先生（慈恵医科大学耳鼻咽喉科）、飯田政弘先生（東海大学耳鼻咽喉科）の6名が推薦された。以上承認された。
今後は、耳鼻咽喉科の新任教授を積極的に評議員に推薦していくことが提案された。また、各大学小児科の新任教授についても、学会への協力要請という点で評議員への推薦検討の提案があり、会員の小児科医の意見を求めながら進めていくこととなった。小児科専門医の機構から認定学会となるには、小児科医が会員数の半数以上を占めることが必要であるが、評議員の数については特に制約はないことが確認された。

13) 年次幹事の推薦
徳島大学の千田いづみ先生が推薦され、承認された。

14) 第13回総会・学術講演会 会長選出の件（飯野理事長）
第13回総会・学術講演会を東海大学小児科の望月博之会長、同大学耳鼻咽喉科の飯田政弘副会長のもと開催されることとなった。

報告事項

1) 学会誌編集委員会報告（委員長：鈴木理事）

工藤典代先生、高瀬真人先生、竹内正人先生、守本倫子先生の4人が辞任され、新たに増田佐和子先生、今井丈英先生、日高浩史先生、安井拓也先生の4人が就任されたことが報告された。

2) ホームページ委員会（HP担当：益田理事）

学会ホームページから会員番号検索、会員情報検索が行えるようになったことが報告された。

3) 用語委員会（中川理事）

特に報告事項なし。

4) 保険医療委員会（峯田理事）

特に報告事項なし。

5) 会則改定委員会（内藤理事）

特に報告事項なし。

6) 学術委員会（小川理事）

来年のリスボンで開催されるESPOに日本から数名を推薦したことが報告された。

7) 小児慢性疾患見直し事業について（守本理事）

特に報告事項なし。

8) 四者協について（守本理事）

日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本小児期外科系関連学会協議会で

構成されており、現在立ち上げられている合同委員会のうち、健康診査委員会に仲野評議員、

重症心身障害児（者）委員会に守本理事が参加していることなどが報告された。

9) 第5回Asian Pediatric Otorhinolaryngological Congressについて（飯野理事長）

今年3月に台湾で行われた上記学会に参加し、Asian Pediatric

Otorhinolaryngological

group（APOG）としてアジアの国々が集まってレベルの高い学会であったこと、いずれ日本に演者を招待して講演を検討すること、2年後は北京で開催予定であることが報告された。

10) 第11回総会・学術講演会 武田憲昭会長ご挨拶

来年6月30日、7月1日に徳島で予定しており、大勢の参加を期待していると述べられた。

11) 第12回総会・学術講演会 春名眞一会長ご挨拶（代理：深美悟年次幹事）

平成29年6月2-3日に宇都宮市内のホテルで開催予定であると報告された。

第10回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日時：平成27年5月7日(木) 16時55分～17時40分

場所：軽井沢プリンス ウェスト 1F 桜

出席者：飯野(理事長)、荒川、伊藤、宇佐美、小川、小林、阪本、鈴木、高瀬、武田、内藤、中川、増田、益田、峯田、守本、山嵜(理事)、氷見、松谷(監事)、市村、田中、早川(顧問)、安達、井口、石川、奥中、香取、工藤、後藤、坂田、佐藤、杉内、鈴鹿、鈴木(光)、竹内、竹中、千田(い)、長井、仲野、西村、二藤、林、春名、兵頭、三輪、望月(高)、望月(博)、安井、余田(評議員)、有本、香山、新鍋、工、深美(幹事) (50音順, 敬称略)

(1) 飯野ゆき子理事長挨拶

本大会開催にあたって挨拶が述べられた。理事会出席者および会長の宇佐美真一会長への謝意が述べられた。

(2) 宇佐美真一会長挨拶

宇佐美真一第10回会長より、開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。議事録署名人に竹内評議員と千田いづみ評議員が指名された。

(3) 平成26年度事業報告について(庶務：守本理事)

[平成26年5月1日-平成27年4月30日]

- 1) 第9回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成26年6月6日-7日の2日間、浜松市において浜松医科大学耳鼻咽喉科 峯田周幸会長のもとに開催した。
- 2) 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成28年に徳島大学耳鼻咽喉科武田憲昭会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第35巻2号、3号、および第36巻1号、2号を刊行した。
- 4) 平成26年度第1回理事会および評議員会を平成26年6月5日に開催した。第2回理事会を平成26年9月6日に開催した。
- 5) 学会事務局を小宮山印刷工業株式会社内に移転した。
- 6) 本学会の会計に関する諸業務を公認会計士に委託した。
- 7) 小児慢性特定疾患にかかる研究班会議に出席し、気道狭窄医療意見書案の作成に協力した。
- 8) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 9) 小児期外科系関連学会協議会に出席した。ボタン電池誤飲に関する要望書を検討し、学会として賛同した。
- 10) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの作成に委員として協力した。

- 11) 学会ホームページの改訂、更新を行った。
- 12) 会員名簿作成のための調査を行った。
- 13) 小児耳鼻咽喉科学会 会員数：平成27年4月23日現在
名誉会員 2名
正会員 1162名 (前年度 正会員1098名)
団体会員 8名
購読会員 5名
寄贈会員 4名
1181名

(5) 平成26年度決算報告(会計：小林理事)
小林会計担当理事より、決算報告、資産の説明があった。

(6) 会計監査報告(監事：氷見監事)
平成27年5月7日に監査を行い、適正であったことが報告され、決算が承認された。

(7) 平成27年度事業計画(案)(庶務：守本理事)
[平成27年5月1日-平成28年4月30日]

- 1) 第10回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成27年5月8日-9日の2日間、信州大学耳鼻咽喉科 宇佐美真一会長のもとに開催する。
- 2) 第11回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成28年6月30日-7月1日の2日間、徳島大学耳鼻咽喉科 武田憲昭会長のもと開催に向け準備する。会場はホテルクレメント徳島である。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第36巻3号、および第37巻1号を刊行する。
- 4) 理事会および評議員会を平成27年5月7日に開催する。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。
- 6) 学会ホームページの充実をはかる。
- 7) 小児慢性特定疾患のあり方に関する研究事業に協力する。
- 8) 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会（四者協）の活動に委員として協力する。
- 9) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの作成に委員として協力する。
- 10) 会員名簿作成のための調査を継続する。

(8) 平成27年度予算(案)(会計：小林理事)
平成27年度予算案について報告があった。事務局費、J-stageオンライン投稿審査システム応募、公認会計士に関する諸費用が昨年度に比べ増えていることが説明され、以上承認された。

(9) 学会事務所移転に関する会則改定について（会則：内藤理事）
本学会が小宮山印刷工業株式会社に学会の事務業務を委任することとなり、事務局の移転を行うことに関し、会則の一部改定が必要であることが説明され、承認された。

10) J-STAGEオンライン投稿審査システム応募について（委員長：鈴木理事）
オンライン投稿査読システムの導入を検討し、「J-STAGEオンライン投稿審査システム」を利用するのが安定性、経済性から好ましく、学会負担金として年45,000円（税別）が必要である説明され、応募することが承認された。

11) 総会の助成金増額について（会計：小林理事）
平成27年度の予算（案）を踏まえて、現時点での助成金増額を見送り、引き続き検討することとなったことが報告された。

12) 評議員の辞退および推薦について（庶務：守本理事）
鈴木賢二先生が評議員を辞退されたこと、新任評議員として山下裕司先生（山口大学耳鼻咽喉科）、成相昭吉先生（横浜南共済病院小児科）、任智美先生（兵庫医科大学耳鼻咽喉科）、田中学先生（埼玉県立小児医療センター保健発達部）、小島博己先生（慈恵医科大学耳鼻咽喉科）、飯田政弘先生（東海大学耳鼻咽喉科）の6名が推薦された。以上承認された。
今後は、耳鼻咽喉科の新任教授を積極的に評議員に推薦していくことが提案された。また、小児科の新任教授についても、学会への協力要請という点で評議員への推薦検討の提案があり、会員の小児科医の意見を求めながら進めていくこととなった。

13) 年次幹事の推薦
徳島大学の千田いづみ先生が推薦され、承認された。

14) 第13回総会・学術講演会 会長選出の件（飯野理事長）
第13回総会・学術講演会を東海大学小児科の望月博之会長、同大学耳鼻咽喉科の飯田政弘副会長のもと開催されることとなった。

報告事項

1) 学会誌編集委員会報告（委員長：鈴木理事）
工藤典代先生、高瀬真人先生、竹内正人先生、守本倫子先生の4人が辞任され、新たに増田佐和子先生、今井丈英先生、日高浩史先生、安井拓也先生の4人が就任されたことが報告された。

2) ホームページ委員会（HP担当：益田理事）
学会ホームページから会員番号検索、会員情報検索が行えるようになったことが

報告された。

3)用語委員会（中川理事）

特に報告事項なし。

4)保険医療委員会（峯田理事）

特に報告事項なし。

5)会則改定委員会（内藤理事）

特に報告事項なし。

6)学術委員会（小川理事）

来年のリスボンで開催されるESPOに日本から数名を推薦したことが報告された。

7)小児慢性疾患見直し事業について（守本理事）

特に報告事項なし。

8)四者協について（守本理事）

日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本小児期外科系関連学会協議会で構成されており、現在立ち上げられている合同委員会のうち、健康診査委員会に仲野評議員、重症心身障害児（者）委員会に守本理事が参加していることが報告された。

9)第5回Asian Pediatric Otorhinolaryngological Congressについて（飯野理事長）

今年3月に台湾で行われた上記学会に参加し、Asian Pediatric Otorhinolaryngological group (APOG)としてアジアの国々が集まってレベルの高い学会であったこと、いずれ日本に演者を招待して講演を検討すること、2年後は北京で開催予定であることなどが報告された。

10)第11回総会・学術講演会 武田憲昭会長ご挨拶

来年6月30日、7月1日に徳島で予定しており、大勢の参加を期待していると述べられた。

11)第12回総会・学術講演会 春名眞一会長ご挨拶

再来年6月2-3日に宇都宮市内で予定しており、大勢の参加を期待していると述べられた。